

# 途上国の研修員を対象とした博物館学集中コース

園田直子

総合研究大学院大学教授 比較文化学専攻/人間文化研究機構 国立民族学博物館教授

国立民族学博物館(民博)は2004年度から、独立行政法人国際協力機構(JICA)から全面的委託を受けて、滋賀県立琵琶湖博物館とともに、JICA集団研修「博物館学集中コース」を企画・運営している。

今年2008年、5年計画の最終年度を迎えたJICA集団研修「博物館学集中コース」の前身は、JICAが1994年度から10年間実施した「博物館技術(収集・保存・展示)研修コース」である。そして、この前身のコースが誕生した背景には、民博の初代館長であった梅棹忠夫氏が、同年新たに拡充されたJICA大阪国際センターの構想委員の一員であって、「関西で始める新しい事業では文化の問題も扱

うべき」と主張したことが挙げられる。それを受けて、博物館に関する技術研修が提案され、民博教授(当時)の森田恒之氏が中心となってカリキュラムを編成した。

「博物館技術(収集・保存・展示)研修コース」は、共通プログラムと専門研修で構成されていた。民博は、共通プログラムの一環として、2週間の研修と1週間の研修旅行からなる「博物館学国際協力セ

ミナー」を担当するとともに、専門研修では、研修員の希望があれば外来研究員として受け入れていた。「博物館学国際協力セミナー」はまた、民博の独自事業という面を併せ持ち、JICA研修員だけでなく、民博の外来研究員も加わることができた。そのため終了時には、全参加者に、民博の館長名による修了証書が授与されていた。なお民博ではコースに先立つ93年、博物館研究をテーマとした外来研究員をタイ、ミャンマー、ラオスから同時期に迎えたのに合わせて「博物館国際交流小セミナー」を開催しており、この経験が国際協力セミナー開催につながっている。

## 2004年に3カ月半のコースに刷新

JICAは2003年10月に独法化され、民博は翌04年4月に大学共同利用機関法人人間文化研究機構の一員となった。それに合わせて、過去10年間の成果を基にコースを全面的に改編し、「博物館学集中コース」が生まれた。

「博物館学集中コース」と前身の「博物館技術(収集・保存・展示)研修コース」との違いは、新コースでは期間を3カ月半に短縮し、対象を博物館実務の担当者に特化したことである。というも旧コースは半年間に及んでいたため、博物館で実務にあたる人が参加しにくかった。また博物館幹部と博物館実務の担当

者との区別をしていなかったことから、研修内容の焦点が定まりにくいという問題が生じていた。

参加資格はいずれも、原則として25歳以上45歳以下、大学卒業もしくは同等の学力を有し、収集、ドキュメンテーション、保存、展示、教育などの博物館活動で実務経験を3年以上持つ者である。また、研修内容を十分に理解できる英語能力を備えているかについても問われる。これらの条件を満たした10人前後の人々が、毎年途上国から参加していた。

新コースは旧コースと同様、共通プログラムと個別研修プログラムで構成されている。08年度は、4月1日来日、オリエンテーション、健康診断、日本語研修の後、研修自体は4月14日～7月11日に実施された。

## 講義・実習に加え日本各地へ研修旅行

共通プログラム(約10週間)は、博物館活動全般を理解するための講義・実習(写真1、2)と研修旅行からなる。新コースの研修内容は表1に示した通りで、項目だけを見ると旧コースと大差がないが、実際にはディスカッションの時間を増やすなど、より双方向性に重きを置いて運用面の改善が行われている。

08年度の研修旅行は、日帰りの京都(京都国立博物館、三十三間堂)、広島(広島平和記念資料館)(写真3)、神戸(阪神・淡路大震災記念「人と防災未来センター」)、大阪(大

表1 JICA集団研修「博物館学集中コース」の基本プログラム

項目	詳細
(1) 概論	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本での博物館制度</li> <li>・博物館と文化表象</li> <li>・博物館と観光</li> <li>・世界の博物館、世界の美術館</li> <li>・文化行政と文化財保護政策</li> </ul>
(2) 収集・整理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料の収集から展示まで</li> <li>・地域資料の収集</li> <li>・資料の整理と収蔵</li> <li>・ドキュメンテーション</li> <li>・資料の写真撮影、映像記録</li> </ul>
(3) 保存・管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料の点検</li> <li>・保存と修復1(民族誌資料と歴史資料)</li> <li>・保存と修復2(考古資料)</li> <li>・博物館における環境</li> <li>・虫害管理</li> <li>・輸送と梱包</li> <li>・映像資料の管理(マルチメディアを含む)</li> </ul>
(4) 展示	<ul style="list-style-type: none"> <li>・博物館の建築</li> <li>・常設展示—設計</li> <li>・常設展示—ディスプレイ</li> <li>・特別展示—設計</li> <li>・特別展示—ディスプレイ</li> <li>・巡回展示</li> <li>・外部空間とモニュメント</li> </ul>
(5) 教育と広報活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育活動</li> <li>・市民サービス、利用者交流</li> <li>・評価(来館者調査)</li> <li>・博物館とバリアフリー</li> <li>・歴史教育と博物館</li> <li>・人権と博物館</li> </ul>
(6) その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・危機対策、保安、防災、防犯</li> <li>・知的所有権</li> <li>・売店経営、商品開発</li> <li>・資金源(政府の文化無償資金協力など)</li> <li>・モデル作成・目的と設計</li> </ul>

阪歴史博物館、大阪人権博物館リバティおおさか)、そして5月20～23日は沖縄(沖縄県立博物館・美術館、那覇市立壺屋焼物博物館、沖縄県平和祈念資料館、ひめゆり平和祈念資料館、首里城、沖縄美ら海水族館、海洋文化館、読谷村歴史民俗資料館、座喜味城)、6月4～6日は東京(国立科学博物館、国立新美術館、東京国立博物館)、12～13日は奈良近郊(独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所、財団法人元興寺文化財研究所、東大寺、法隆寺、大阪府立近つ飛鳥博物館)であった。5月の連休中に自主的に見学する博物館を含めると、研修員は、滞日中50館以上の施設を訪れることになり、コースを運営して

いる私たち以上に日本の博物館事情に精通している。

研修員には、自国の博物館事情を紹介するカントリーレポート、自身の専門に関するスペシャルティレポート、研修最終日のファイナルレポートのそれぞれを発表する場が用意されている。3年前から始めたスペシャルティレポートは、自身の専門について、関連する講義の中で報告するというもので、研修員の経験を他の研修員や日本側が学べる機会になっている。

08年5月31日、カントリーレポートの発展形と言える「世界の博物館」2008公



写真1 講義のひとこま



写真2 実習のひとこま(照度測定)

表2 国別および年度別にみる「博物館学国際協力セミナー」(1994-2003)と「博物館学集中コース」(2003-2008)の参加者: 左の数字はJICA研修員数、右( )内の数字は民博の外来研究員

	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	Total
ブータン	1	(2)	1				1									3(2)
カンボジア				1												1
中国						1	1(2)	1				1	1			5(2)
インドネシア			1	1					1	1						4
韓国			(1)			(2)										(3)
ラオス	1	1				1		2								5
マレーシア	2	1					1									4
モルジブ			1													1
モンゴル	1(1)					1			1							3(1)
ミャンマー	(2)			1(1)			1									2(3)
ネパール						1(1)			1							2(1)
パキスタン					2											2
シンガポール			1													1
スリランカ												1				1
タイ	1	2			(1)			1	1				1			6(1)
ベトナム		(4)	(1)	(1)							1				2	3(6)
イラン													1			1
ヨルダン									2					1	1	4
パレスチナ										1						1
サウジアラビア				1				1	1	1		1				5
シリア				1												1
トルコ										1	1		1			3
ブルガリア							1		1							2
フィンランド							(1)									(1)
マケドニア					1											1
ベナン								1								1
ボツワナ													1			1
カメルーン				1												1
コートジボワール										1	1	1				3
エジプト											1					1
エリトリア									1		1		1	1		4
エチオピア		1									1					2
ガーナ			1	(1)												1(1)
ケニア			1									1				2
マダガスカル	1							1								2
ナイジェリア											1					1
セネガル				1												1
タンザニア				(1)	1											1(1)
ザンビア			1			1	1	1	2		1	1	2	3		12
ボリビア			1			1						1				3
ブラジル		(1)														(1)
チリ					1											1
コロンビア										1		2	1	1		5
コスタリカ											1					1
ガテマラ				1	1					1		2		1		6
ガイアナ														2		2
ペルー		1				1	1				1	1	1	1	2	9
オーストラリア		(1)														(1)
フィジー										1				1		2
バブアニューギニア		1	1			1	1									4
ソロモン諸島	1	1							1							3
合計	8(3)	8(8)	9(2)	8(4)	6(1)	8(3)	7(3)	9	9	9	10	10	10	10	9	130(24)

開フォーラムが、民博で開催された(写真4)。参加者は一般72人、関係者を含めると100人以上にも上り、コロンビア、ザンビア、ベトナム、ペルー、ヨルダンの5カ国9人の研修員から、普段知る機会の少ないこれらの国々の博物館事情を聞くことができた。公開フォーラムは、その後の懇親会とともに、研修員と一般の人々との貴重な交流の場になっている。

#### 後半は希望に沿った個別研修を実施

後半の3週間、研修員は週ごとに希望の研修を選択する。個別研修プログラムは専門性が高く、その実施にあたっては他機関の協力をいただいている。

第1週は、地域歴史博物館の活動(吹田市立博物館)、資料の保存と修復(財団法人元興寺文化財研究所)、展示デザイン(有限会社コモードデザイン)から選ぶ。第2週は、博物館と地域コミュニティー(滋賀県立琵琶湖博物館)、写真撮影(民博)、予防保存(民博)から選択する。第3週は、考古資料の発掘と保存管理(大阪府教育委員会)、博物館・美術館と学校教育(平塚市博物館)、複製制作(株式会社京都科学)、民族誌映像の撮影と編集(民博)のいずれかとなる。このほか、一部の研修員は、土曜日に模型製作(有限会社景観模型工房)のプログラムを受ける。

#### 海外に広がるネットワーク

このほか対象国を限定したJICAコースとして、例えば04、05年度に「シリア博物館学導入コース」、07年度に「中東地域博物館研修コース」が3~4週間実施されており、民博の研究者も協力してきた。

かねてより民博には、「途上国の博物館職員に対して行う専門的な研修に協力して欲しい」との要望が寄せられており、このような博物館学の国際交流は日本国内での研修に限ったものではない。2000年3月4~8日には、国際交流基金アジアセンターの援助を受け、ベトナムと日本それぞれの国立民族学博物館による「博物館セミナー」がハノイのベトナム民族学博物館で開かれ、奈良県立民俗博物館

の奥野義雄氏、民博から森田恒之氏、大塚和義氏(いずれも現名誉教授)と私が参加した。

ベトナム民族学博物館は、この3年間で4回、国内の博物館関係者を集めた博物館学サマースクールを開催しているが、その企画においては上述のセミナーや民博の「博物館学国際協力セミナー」が影響を与えたという。08年6月16~17日には、ベトナム民族学博物館長らの訪日を機に、民博で「日越博物館学交流セミナー」が開催され、博物館学セミナーに関する双方の経験の共有が図られた。

#### ザンビアではワークショップ

05年12月4~9日、JICAの2コースの研修修了者6人(当時)が中心になって、ザンビアのリヴィングストーン博物館で「博物館学ワークショップ」が開催された。6人自ら講師を務め、日本に来る機会のなかった国内の博物館関係者を対象にした企画として、JICAと日本学術振興会アジア・アフリカ学術基盤形成事業の支援で行われた。

ワークショップには、ザンビアの全博物館(国立4館、私立2館)から参加者がおり、全国的なネットワークが形成されていることが伺えた。野外民族博物館リトルワールドの亀井哲也氏、民博の吉田憲司氏、川口幸也氏と私、そして元青年海外協力隊員としてザンビアのルサカ国立博物館で教育活動に携わっていた五乙女賢司氏(現民博機関研究員)を含め、参加者は28人に上った。展示、保存科学、ドキュメンテーション、博物館教育と、毎日テーマを変えながら、ザンビア側と日本側双方の発表、質疑応答、討論という形式で進められた。

日本での集団研修の成果がこのようなワークショップ開催に結びついたらと高く評価され、その後3年計画で、JICAフォローアップ事業「博物館学集中コースフォローアップ研修」が展開されている。06年度は展示デザイン、07年度は保存科学をテーマとし、前者には熊谷孝氏(有限会社コモードデザイン)、後者には日高真吾氏(民博)と藤田孝氏が日本から派遣



写真3 広島への研修旅行



写真4 「世界の博物館」2008公開フォーラム

された。08年度は、収集に関する研修が予定されている。

#### 海外に張り巡らされるネットワーク

民博の研究者は世界各地でフィールドワークをしており、組織として研修後のフォローアップを行いやすいのが大きな強みである。また近年のインターネットの普及は目覚ましく、多くの途上国でも信頼できる通信手段になっている。研修修了者の中には、諸事情から別の道を歩むことになった人もいるが、帰国後に行政の要職に就いた人、大学で博物館学コースを立ち上げるべく奮闘している人、再来日して大学院で頑張っている人、とさまざまである。

10年間の「博物館学国際協力セミナー」と5年間の「博物館学集中コース」の参加者は、JICA研修員130人、民博の外来研究員24人、合わせて51カ国154人に達した(表2)。参加者間のネットワークを強固にするとともに、博物館学に関心のある国内外の関係者にPRする目的で、2000年、01年、03年(02・03年合併号)に『Co-Operation Newsletter for the Minpaku Seminar on Museology』、04年からは毎年『Museum Co-operation - Newsletter of the Intensive Course on Museology』を発行している。

15年間、民博は、滋賀県立琵琶湖博物館や多くの機関とともに、研修をつなぐ

タテ糸を繰り出してきた。研修員たちは、日本で同じ目標のもと中身の濃い時間を過ごし、強い信頼関係と友情のヨコ糸を毎年、紡ぎ出してきた。08年8月現在、JICAの博物館学コースが09年度以降も実施されるかどうかはまだ決まっていないが、これからもヨコ糸とタテ糸が交互に結びつきながら成長し、1枚の布を超えて3次元の織りとなるとき、真のネットワークが生まれてくる。



園田直子(そのだ・なおこ) 専門は保存科学。近代絵画の画材分析からこの世界に入り、民博の多種多様な資料を前に、民族資料さらには図書資料の保存と、研究対象が広がる。民族資料では、虫害対策にはじまり、保存環境情報の解析と評価、保管・管理方法の最適化など、図書資料では酸性紙対策、これらの問題を中心に、予防保存を重視した研究を進める。JICAの博物館学コースには、民博に着任した年の「博物館国際協力小セミナー」から2008年度まで16年間かかわってきた。